



日本金魚事情

日本金魚事典

專題報導～日本金魚篇
Special Report



文字、攝影 / 大野成實
版面設計&插畫 / 陳孟容

～筆者簡介～

大成企劃 - 大野成實

1995年出生於江戸前金魚的故鄉～東京都江戸區，從小學時期就對釣魚及觀賞魚的飼育有相當的興趣，大學時期開始從事釣魚雜誌的編輯工作，之後擔任"Fish Magazine"的總編多年，一直對於日本觀賞魚的普及與啓蒙進行努力，現在則從事於金魚的歷史與文化的研究。



日本各地的大型水族館都正在舉辦金魚展。再者，連NHK的晨間連續劇「櫻花」的主人翁，就是在經營日本傳統的金魚店，主要在介紹日本傳統的金魚文化其傳承的重要性。這種傳統的日本金魚，實際上是由中國金魚流傳而來，而後在世界上被成功的以人工方式繁殖，可以說是最早的觀賞魚。

在此，就以觀賞魚的始祖～金魚為起點，來介紹日本的金魚事典。

探討金魚的故鄉－中國

在中國，說到觀賞魚，是始自於12世紀的南宋時代，在當時的杭州大城有許多皇宮貴族都飼養金魚，從那時開始，繁殖各式各樣的金魚被視為皇族或是富豪的地位象徵。

由於1960年的文化大革命，金魚成為一種奢侈品，一時間許多珍貴的品種幾乎瀕臨絕種。現在，雖然有一些品種已復育，但是這些品種的評價方式與日本的金魚是截然不同。

中國人非常喜歡體型有趣與色彩鮮明的金魚。在中國，金魚是皇族或是上流階級賞玩的高級魚。他們的興趣就是繁殖一些不曾見過的稀有金魚，來貢獻給朝廷。

因此，在日本大約只有30種以下的金魚品種，而中國卻存在至少200種以上的品種。更甚者，根據風水的說

法：「金魚是和平、喜樂、昌盛的象徵」，若加上這一點來考量的話，更確立了金魚為水中藝術品的地位。

在戰爭結束後，為了維持品種，並且將體態標準的美麗金魚擴展到世界各地，日本反而成了主要的金魚產地。但70年代文革後的中國，急速地再度展開金魚的生產，以公立水族館為中心，生產出各式各樣金魚的改良品種。但是，因為沒有如同日本以大型水泥池為主的大量生產技術，所以無法普及至一般的大眾。

最近，中國的生產技術已經紮根，大多數的品質已經穩定，也可能可大量生產。因此，漸漸威脅到日本的金魚市場，但是在鑑別金魚的方法上，日本與中國還是有許多的不同。因此日本金魚不會馬上被中國金魚所淘汰。

日本金魚的主要生產地及市場

「金魚」，在日本是到處都可買到的普及化觀賞魚。大量生產的產地以奈良的大和郡山市、愛知縣的彌富與東京的江戸川三個地方最出名。

具有最悠久歷史的奈良縣大和郡山市，在江戸時代中期，飼養金魚原本是藩主間的閒暇興趣，而後生產金魚成了下階層武士間在閒暇時的主要副業。明治以來，開始有了集團式經營的露天繁殖場，也因此開始了大量生產。



日本魚場以水泥池來飼養金魚，裡面正養著日本的特產金魚「鱗鱗」及「土佐金」。

日本金魚が熱い！

日本各地の水族館で「金魚展」が開催されている。

また、NHKの朝の連続テレビ小説「さくら」でも、日本の伝統的な「金魚屋さん」が登場していた。これは、日本の伝統的な金魚文化を受け継ぐ、重要な存在として紹介されていたのである。

この伝統的な日本金魚は、実は中国生まれの、観賞魚の原点でもある。世界で人工的に作り上げられた、最初の観賞魚ともいえる。

ここでは、観賞魚の原点・金魚を中心とした、日本金魚事情を紹介してみよう。

金魚の故郷、中国を探る

中国では、観賞魚としては、12世紀の南宋時代の都であった杭州の宮廷の皇族によって、金魚が飼育されるようになったという。以来、皇族や豪商のステータスシンボルとして、いろいろなタイプの金魚が作出されたのである。

中国では、1960年代の文化大革命によって、金魚も贅沢品として、一時貴重な品種が多散絶滅してしまったという。現在では、少しずつ復活しているようであるが、その金魚の評価法は、根本的に日本と違っている。

中国人は、面白い形や色彩が現れることを喜んだ。中国では、金魚は宮廷や上流階級が愛玩する高級魚であり、見たこともない珍しい金魚を作って、宮廷に献上することに興味が集まったのである。

そのために、日本では30品種弱しかない金魚が、中国では200品種以上存在するという状況である。さらに、風水などによる「金魚は平和、富貴、隆盛を象徴する」という考え方も加わり、金魚は水中の芸術品としてのステータスも確立したのである。

元来、終戦後に日本が世界に金魚を広めたといっているが、特に、品種を維持しながら、基準に合った美しい金魚は、日本が主生産地であった。文革後の70年代の中国では、急速に金魚生産が再開され、公的な水族館が中心となって、いろいろな金魚の改良種作出に力を入れたようだ。しかし、日本のような大きな露地池（泥池）による大量生産技術がなかったため、一般大衆への普及はしなかったようである。

最近では、日本的な生産技術が定着し、だいぶ品質的にも安定してきており、大量生産も可能になって、ますます日本の金魚市場を脅かす存在になりつつはある。しかし、まだまだ金魚の見方、選別法が日本と中国では違うため、すぐに中国金魚が日本金魚を駆逐してしまうことはないと考えている。

日本の主な金魚生産地&市場

金魚は日本全国、どこでも購入できるポピュラーな観賞魚だが、大量生産される産地は奈良県大和郡山市、愛知県弥富町、東京都江戸川区の三ヶ所が有名である。

一番古い歴史を持つのが奈良県大和郡山市、江戸時代中期から藩士の間で趣味として金魚飼育が広まったが、次第に下級武士の間で内職として生産されることとなった。明治以降、露地池による集団的な養魚場も作られ、大量生産されるようになった。

愛知県弥富町の金魚養殖が始まったのは約140年前の江戸時代末期。大和郡山の金魚商人が、名古屋を目指す途中に立ち寄った弥富町で、金魚を休ませるために放流したことが始まりだといわれている。木曽川下流域の豊かな水と、鉄分の多い粘土質の土壌が金魚の飼育に適していたことから、大きな金魚産地に成長した。

東京都江戸川区の金魚養殖の歴史は比較的新しく、明治時代から。関東大震災（1913年）以降に金魚の需要が増えたことで発展していった。第二次世界大戦直後には餌が不足したり、金魚池が田畑に転用されたりして絶滅の危機に瀕したが、関係者の努力により全国三大産地の一つにまで成長した。

最近では、埼玉県でも生産者が増え、江戸川区に代わり金魚生産の中心地となりつつある。他にも、熊本県長洲町などが金魚の産地として挙げられる。また、地方独自の 방법으로飼育されてきた品種などもあり、高知県のトサキンや島根県のナンキン、愛知県のジキンなどといった品種として残っている。

また、日本では金魚流通の要として「セリ市場」が重要視されている。これは、金魚の管理体制を強化すると共に、以下のような役割を持ち、日本の金魚業界を左右する重要なシステムでもある。

金魚のセリ市場は大正10年、東京金魚商組合によって、深川西町に初めて誕生した。以来、戦争をはさんで、戦後の昭和33年には加入自由のセリ市場が開設されるや、全国にセリ市場が増え、瞬く間に金魚流通が一変した。

現在、日本一の生産量を誇る愛知県弥富町では、昭和42年からセリ市場が開設され、今では3市場が開かれている。

その管理法としては、池の水質に注意し、夏場は特に害虫の駆除を1週間に1回、冬場は月に2回の池の藻落としを実施している。

このように、セリ市場の充実により、金魚は販売商品としては非常に伝統的な方法によって、流通が整備されており、また、合理的に商売が可能である。もちろん、新しい試みもいろいろと登場しはじめており、今後が楽しみな業種でもある。

金魚業界が一丸となって、より広く一般の消費者に啓蒙・普及活動を展開すれば、必ずや明るい未来が開かれることであらう。

日本金魚の現状とその方向性

日本における金魚飼育の普及率は全世帯の16~18%とされている程人気があり、特に夏場には「風物詩」としても定着している。そして日本金魚は、従来の伝統的な品種の維持





愛知縣彌富町的金魚養殖，始於距今大約140年前的江戶時代末期，當時大和郡山的金魚商人，在前往名古屋的途中，順路來到彌富町，為了讓金魚休息而放流於此。由於木曾川的下流水域有豐富的水源，並且有富含鐵質的黏質土壤，非常適合金魚的養育，因此成為大型金魚的產地。

東京都江戶川區的金魚的養殖歷史相較起來就比較短。從明治時代的關東大地震(1913)以來，對於金魚的需求量持續大增。第二次世界大戰以後，因為飼料的不足，金魚池被轉開發成為農田，金魚也差點面臨絕種的危機，但是經由相關人士的努力後，這裡還成了全國三大產地中唯一成長的地區。

最近，埼玉縣的繁殖場增加，漸漸取代江戶川區成為金魚的生產中心。其他如熊本縣長洲町也開始有了金魚的產地，還有許多以當地特殊方式養育出來的品種，如：高知縣的土佐金、島根縣的南京、愛知縣的地金等，都是保留下來的品種。

此外，在日本對於金魚的流通以「拍賣市場」最受重視。這個是為了加強金魚的管理體系，就如以下的任務執掌一樣，是左右日本金魚業界的一個重要的流通市場系統。

金魚的拍賣市場是大正10年，由東京金魚商於深川西町開始產生。後來因為戰爭開打，到了昭和33年戰後，便開始可以自由的加入拍賣市場後，全國的拍賣市場瞬間增加，金魚的流通也一夕改變。

現在以日本產量第一自詡的愛知縣彌富町，從昭和42年拍賣市場成立以來，至今已經有三個市場在此設立。

如此一來，不僅充實了拍賣市場，根據非常傳統的方法，將金魚視為銷售商品的流通系統也被合理的經營。當然也開始有了越來越多的新嚐試，從今而後會是相當令人期待的行業。

金魚界業者如果團結一致，加強拓展對一般消費者的推廣與普及活動，必定會開拓出更寬廣的未來。

日本金魚的現狀及其方向

在日本飼養金魚的普及率大約佔全體16~18%，算是很受歡迎的觀賞魚。特別是夏天時，金魚已經固定成為「即景詩」的主題。並且日本的金魚一直維持著傳統的品種，首要是生產出健康且美麗的金魚。並且也積極援助產出新品種，對市場而言，接受新商品是必須的。

與其生產新的金魚品種，日本人反而更希望品種的穩定，生產出符合標準且美麗的金魚。取得平衡且完美的體型，淘汰不合格品，這是日本的金魚文化。

今後，日本特產的鰻鱺、土佐金、南京、地金等新改良金魚，也會漸漸地被認同。但是中國金魚業界在經過文革時代的激進變化，也產生了一波新的潮流。故日本產的一般金魚，不管在養殖生產或是價格、品質等各方面，也相對面臨更嚴苛的情況。

所以如果不養殖具有特色的金魚，生存會顯得困難。現在還有航空運費問題及挑選問題，中國產的金魚或是海外的金魚，雖然沒有大量進入日本市場，但如果就價格面來說，可想而知是會在日本市場上大量流通的。就如同其他的農產品或是工業用品，同樣地會面臨相同的狀況。

對日本的金魚業者來說，為了將來可以繼續金魚的繁殖培育，必須要與各地金魚的公會合作，並且開發出合理的養殖生產技術與相關研究。針對魚病的預防、新品種的開發、飼育管理的相關問題等互相交流，並且得到大學研究機關的幫助，以產學合作來生產金魚，這才是日本金魚的生存之道。

日本的金魚評鑑會

評鑑會提高了金魚的附加價值，並且是一種誇示地位的象徵，負有重要的任務。評鑑會主要是金魚的同好會，會員間彼此競賽飼育的成果或由公會來合力主辦，針對繁殖場及生產者間生產技術的提昇。鰻鱺或土佐金就是針對單一品系的競賽。另一種則以各式各樣的品種彼此競爭。在此，就針對後者這種讓一般人比較可以容易學習，而又可以見識各式各樣金魚的評鑑會進行說明。

獎是如何決定的？

在愛知縣彌富町舉辦的「日本金魚大會」中，依金魚的品種分為25個項目，總共有500隻嚴選出的金魚參選，審查方式為將魚隻個別放入白色的水盆中，一個項目有三個審查員，依序由上觀看來評鑑，全部評鑑過後以投票的方式來決定獎項。

評分重點為：體型、色彩以及藉由觀看金魚游動姿勢來判斷鰭或體態平衡是否良好，體型與顏色越符合該品種的理想，評分就會越高。

金魚評鑑會的流程如下：

送選→審查→決定入選者→公開發表

再者，主要的大型金魚評鑑會，以下列的大會為主：

- | | |
|-------------|--------------|
| * 日本觀賞魚大會 | 東京都江戶川區 |
| 4月第2個週末 | |
| * 靜岡金魚品評大會 | 靜岡濱松市 |
| 9月下旬的週日 | |
| * 金魚日本一大評鑑會 | 愛知縣海部郡 |
| 10月第四週日 | |
| * 埼玉觀賞魚評鑑會 | 埼玉縣加須市 |
| 11月3日 | |
| * 日本鰻鱺協會大會 | 東京、大阪、愛知輪流舉辦 |
| 11月3日 | |

關於審查的規定

在此，就來介紹日本最傳統的「日本鰻鱺協會」對於審查的相關基本條例：



在日本金魚已固定成為夏季「即景詩」的主題。

をしながら、丈夫で健康な美しい金魚を作ることが第一である。そして、新品種の作出を積極的に応援し、市場がそれを受け入れる土壌が必要である。

日本人は新しい金魚を作るよりも、品種として安定した、基準にあった美しい金魚を作ることに関心を持った。バランスの取れた、美しい形が良いとされ、反するものは選別され、排除されて、日本の金魚文化が育てられたのである。

今後、日本特産のランチュウ、トサキン、ナンキン、ジキンや新改良金魚は、その存在が認められていくだろう。しかし、中国の金魚業界でも、文化大革命などで時代や背景が急激に変化し、新しい波が押し寄せている。日本産の一般金魚については、養殖生産が価格面、品質面で対応が厳しい状況になると予想される。

だから、よほど特徴を持った金魚養殖をしなければ、生き残りは難しい状況であろう。今はまだ、航空運賃の問題や選別の問題で、中国産の金魚や海外金魚が、日本市場に大量に入っている状態ではないが、価格面でメリットがより強調されてくれば、たちまち日本市場に大量に流通すると予想される。他の農産物や工業品と同じような状況になるであろう。

日本の金魚業界としても、将来の金魚生産を継続するためには、各地の金魚の生産組合などが協力しあって、より合理的な養殖生産技術を研究及び開発する必要があるだろう。魚病対策や新品種作出、飼育管理問題などをお互いに情報交換し、大学の研究機関にも協力してもらい、産学協同の金魚生産システムが必要な時代であると考えている。

それが、日本金魚の生きる道であろう。

日本の金魚品評会

品評会は、金魚の付加価値を高め、またステータスシンボルを誇示するために、重要な役割を果たしている。その品評会には愛好会が主催し、その会員同士で飼育の成果を競い合うものと、生産者組合が主催し、養魚場などの生産者同士で生産技術の向上のために競い合うものなどがある。前者はランチュウやトサキンなど、1種類の品種で競い合うことが多いが、後者は様々な品種ごとに競い合う。ここでは、比較的一般の人でも見学しやすく、多様な金魚が見られる後者の品評会について説明していこう。

賞はどのようにして決まるか？

愛知県弥富町で行なわれる「金魚日本一大会」では、金魚の品種に応じて25部門、全部で500匹以上の厳選された金魚が出品される。審査は1尾ごとに白いタライに入れ、1部門につき3人の審査員が、順に上から見て行なう。すべて見終わったら審査員同士で投票を行ない、入賞を決めていく。

評価するポイントは、体型や色彩。また、泳ぐ様子を見て、ヒレや体型のバランスが良いかどうかを判断していく。品種ごとに理想とされている体型や色に近い金魚が、高い評価を得られるのである。

また、金魚品評会の流れとしては、

出品→審査→入賞者の決定→一般公開
となっている。

また、主な大きな日本の金魚品評会としては、下記の大会があげられる。

*日本観賞魚フェア—東京都江戸川区・タワーホール船堀—
4月第2土・日曜日

WORLD MAGAZINE
A・観賞魚・AQUARIUM

專題報導～日本金魚篇

Special Report





第一條

審查須特別注意的事項：

- * 魚隻的整體姿態與平衡。
- * 魚隻的基本姿勢、頭、身體、尾及各部位的特徵，整體的勻稱。
- * 魚隻的粗壯與健康。
- * 魚隻的大小比例，越粗壯健康為上。
- * 魚鱗的排列及顏色的鮮豔美麗。
- * 魚鱗排列的很工整，身體比例越小的為上者，紅的要艷紅，以更砂的紅色為標準；黃金色要鮮明，健康者為上；白色的，要以更紗的白為標準。
- * 魚隻成色要豐富。
- * 保有貴族品系的魚為上。
- * 魚隻的游姿要優雅要輕，以尾鰭保持游動的姿勢。

第二條

- * 頭：眼幅要寬，眼睛前方的肉瘤有兜巾、緊張、龍頭等各種形式。
- * 背：背幅要寬廣，略成圓形，背下要維持適當的弧度。
- * 腹：腹部的線條要介在背與尾之間一適當間距。
- * 尾筒：背幅的比例越大越粗壯的，尾付會呈圓形(弧度)。
- * 尾：尾付要能優美的左右擺動，須有適當的尾皿及張力。三葉尾、四葉尾、櫻尾也是如此。尾鰭與尾筒成90°為上。
- * 鰭：各鰭大小適中，且能游動。

第三條 審查必須考慮魚隻的大小。

第四條 魚隻的審查要以當天的標準來評量。

第五條

有以下缺陷時，則不列入審查：

- * 背鰭、二葉尾、非成魚(不審查)。
- * 背鰭凹凸有瘤，尾彎曲。
- * 更紗部分：多紅更紗、多白更紗、腰白(腰及尾筒呈白色)、背紅(背部紅色)、白腹(腹部白色)。
- * 頭部：面被(體白頭紅)、面白(頭白體紅)、面更紗(面有紅白點)、丹頂(頭有紅色肉瘤)、兩奴(兩腮為紅色)、口紅(口唇紅色)、黃頭(頭部黃色)。

第六條

魚的品級，肥大不合格或是非成魚都是要被扣分的，日本的金魚前輩們根據以上的各點，詳細且嚴密的審查，因此評鑑會審查出的受獎魚隻都有其正當性。

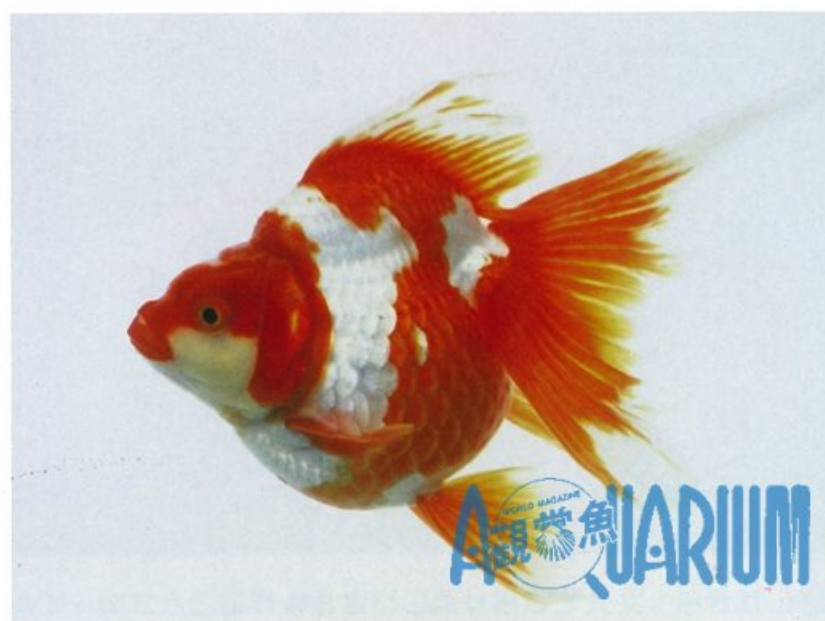
日本較受歡迎的種類

接著依序介紹在日本最受歡迎的前20種金魚品種：

1. 和金～眾所皆知的“撈金魚”的主角。



和金。



日本金魚的代表～琉金。

2. 琉金～純日本金魚的代表。
 3. 出目金～(龍睛)自古就以趣味出名。
 4. 彗星～魚鰭很長的金魚，就是玉如意。
 5. 獅頭～如同獅子頭般，頭部是最大的特徵。
 6. 鶴頂紅～頭部有一點紅的丹頂金魚。
 7. 朱文錦～彗星型的彩色金魚，就是五花玉如意。
 8. 鱗鱗～圓形的背幅，為金魚的國王。
 9. 東錦～紅帽型的五花金魚，就是五花獅頭。
 10. 珠鱗～鱗片如珍珠般美的金魚。
 11. 青文魚～鱗片閃耀著的藍色的光芒，就是藍獅頭。
 12. 五花～白、紅、黑、藍等炫麗的色彩。
 13. 茶金～此類金魚特徵為有很美的茶金色體色，就是紫獅頭。
 14. 朝天眼～向上凸眼有趣金魚。
 15. 江戶錦～鱗鱗型五花金魚，就是五花鱗鱗。
 16. 水泡眼～特徵為眼睛下方有很大的水泡。
 17. 蝶尾～尾鰭如蝴蝶般展開。
 18. 土佐金～四國土佐金生產的金魚有很美的尾鰭。
 19. 花房～顏色大小如花苞般可愛的金魚，就是繡球。
 20. 櫻錦～鱗片如同櫻花般美的金魚，就是櫻花鱗鱗。
- 特別種：地金、南京、濱錦、大阪鱗鱗及其他。



珍珠鱗。

- * 静岡県金魚品評大会---静岡県浜松市・浜松市フラワーパーク---9月後半の日曜日
- * 金魚日本一大会品評会---愛知県海部郡・海南こどもの国---10月第4日曜日
- * 埼玉県観賞魚品評会---埼玉県加須市・埼玉県水産流通センター---11月3日
- * 日本らんちゅう協会全国大会---東京・大阪・愛知が持ち回り---11月3日

審査規定について

ではここで、日本で一番伝統のある、日本らんちゅう協会の審査規定について、基本的なことを紹介しておこう。

第1条

審査に当たり特に下記に注意すること。

1. 魚の総体の姿とバランス
魚の基本姿勢は頭、胴体、尾が各々もつともその特徴を生かし、総体的な釣り合いの整ったもの。
2. 魚の太くたくましいもの
魚の大きさに比例した中で、より太くたくましいものを上とする。
3. 鱗の並び及び色艶が綺麗であること。
鱗は乱れずに一線に並び、魚体に比例してなるべく小さいものを上とし、色艶は赤、更紗にがかわらず、赤の場合は濃赤、黄金色でしかも健康色を放っているものを上とする。白、更紗もこれに準ずる。
4. 魚の品位が豊かであること。
魚は貴族的品位を保っているものを上とする。
5. 魚の泳ぎ方が軽やかであること。
魚の泳ぐ姿勢は優雅にしかも軽やかな尾ビレで、流動的な動作を持たねばならない。

第2条

1. 頭~眼幅があり眼先多く、肉瘤は兜金、緊張、龍頭などバラエティーのあるもの。
2. 背~背幅広くして丸にを帯び、なだらかに適当な丸みを持った背下りであること。
3. 腹~背と一対にして尾との間隔が適当に腹掛りであること。
4. 尾筒~背幅に比例してより太くたくましく、尾付のところで丸みを持ったもの。
5. 尾~尾付が綺麗で左右相照の前掛りを持ち、適当な尾皿と尾張りを必要とし、尾捌が上手であること。なお、三

ツ尾、栞尾、四ツ尾とも対等である。尾の立ち上がりは尾筒に対して約90度にて背より上がってはならない。

6. 鱗~各ヒレとも均等大きさ及び動きを必要とする。ただし、損ヒレは一本尾、二本尾とも対等である。

第3条

審査に当りては、魚の大小を考慮に入れてはならない。

第4条

魚を審査するに当りては当日の出来を基準とする。

第5条

下記の諸欠点、甚だしいものは審査しない場合がある。

1. 背ビレ、二ツ尾、不具魚(審査しない)。
2. 背の凹凸、瘤、尾筒の曲がり。
3. 更紗の部、多赤更紗、多白更紗、腰白、背赤、白腹模様。
4. 頭模様の部、面被り、面白、面更紗、丹頂、両奴、口紅、まど、黄がしら。

第6条

魚の品位、味合いを欠く程の肥大魚及び未熟魚は減点の対象とする。

以上のように、日本の金魚先駆者たちによって、細かく厳密に審査は実施されており、それだけ、品評会の入賞魚は正当に評価を受けているのである。

日本における種類別金魚人気

では次に、日本における種類別の金魚人気ベスト20を記しておこう。それは次の通りである。

- 1位~和金(ワキン) ご存知「金魚すくい」の主演。
- 2位~琉金(リウキン) 純日本的で代表的な金魚
- 3位~出目金(デメキン) 古くから面白金魚として有名
- 4位~コメット ヒレの長い長手金魚の代表選手。
- 5位~オランダシシガシラ 獅子頭の通り、頭のコブが特徴的。
- 6位~丹頂(タンチョウ) 頭の赤がワンポイントの丹頂金魚。
- 7位~朱文金(シュブンキン) コメットタイプのキャリコ模様の金魚。
- 8位~ランチュウ 卵型の背ビレのない、金魚の王様。
- 9位~東錦(アズマニシキ) オランダタイプのキャリコ模様の金魚。
- 10位~パールスケール ウロコがパールのような美しい金魚。
- 11位~青文魚(セイブンギョ) ウロコがブルーに輝く、オランダタイプの金魚。
- 12位~キャリコ 白、赤、黒、ブルーなどのカラフルな色彩。
- 13位~茶金(チャキン) 美しい赤茶色の体色が特徴的な金魚。
- 14位~頂天眼(チョウテンガン) 上を向く出目がユーモラスな金魚。
- 15位~江戸錦(エドニシキ) ランチュウタイプのキャリコ模様金魚。
- 16位~水泡眼(スイホウガン) 眼の下の大きな水泡が特徴的。
- 17位~蝶尾(チョウビ) 尾ヒレが蝶のように広がる出目タイプの金魚。
- 18位~土佐金(トサキン) 四国土佐で生まれた、美しい尾ビレの金魚。

專題報導~日本金魚篇

Special Report





在日本的金魚業者，維持了傳統的生產技術及合理的流通系統，會繼續源源不絕的提供新品種給大家。

幫助兒童心靈成長～金魚的飼育

金魚被視為觀賞魚已有近百年的歷史，經過不斷的品種改良流傳至今，可視為與人類最具關聯性的觀賞魚。

不僅如此，在當時備受關愛，而現在即使經過社會環境的急速變遷，對於我輩還是有心靈治癒的功效。

特別是對因社會或家庭環境變化而積壓壓力的成長期兒童來說，在家庭或是學校飼養金魚，可以培養重視小生命的偉大情操教育，如果是這樣的話，會有助於身心的健康成長。

有某一家觀賞魚業者在1994年與日本醫科大學心理系教授杉浦京子共同針對「觀賞魚飼育對精神療法的效用」，進行相關的研究，經由學術結果從旁證實了：越投入觀賞魚飼育的活動者會有較強的意志力，且抗壓性也會越高。

因此，金魚的飼育與普及對於我們的生活及兒童的成長都會有很大的功效，希望也因此促進觀賞魚業者的穩定成長。

地金、土佐金、南京是日本獨特的改良品種，也是指定的天然紀念品，為了保有牠們的特徵，是需要花相當多的時間在飼育的功夫上。那就稍微來探討一下「地金」的飼育方式。

地金的飼育

金魚的取得

對於水質的變化會特別敏感的地金，若是由完全不懂飼育知識的消費者直接帶回家裡面飼養，大約1~2週就會全數死亡。若是從金魚的專門店或是從愛好者處買到，並且已經習得正確的知識，那麼帶回家時就可以安心的飼育。從專門店或是愛好者處得到自己希望飼育的金魚會是比較令人滿意的方式。

飼育的基本方式

對於地金來說，若是以普通的管理方法來飼育的話，顏色、尾鰭、體型等特殊特徵，會漸漸地褪色。因此，特別需要注意水質的調整，以室外的綠水來飼育，自然而然水中會產生藻類，因此調整藻類量就會變得很重要。藻類多時，金魚就會食藻，體色也會變得越來越鮮紅。

地金(愛知縣天然紀念品)

地金的歷史

地金產於名古屋的愛知縣，是由一群愛好者所飼育得來，而評鑑會則始於明治初期。地金實為土地金魚的意思，尾鰭的形狀有如孔雀的尾巴般展開，因此被稱為



地金。

孔雀，而其體色的特徵也被稱為六鱗。

此品種在大正七年間，於岡崎與名古屋市皆有飼育且兩地飼育程度相當，但昭和10年，因為名古屋市的增田冬輔先生非常熱心並且努力的保存此品種，並推廣於全國，因此在昭和33年3月11日被指定成為愛知縣的天然紀念品。

本品種被視為和金魚的一種，身體及腹部皆很高。尾鰭的特徵是孔雀尾，由四葉尾變化而來，四片呈X型或是十字型尾擴散，中心則是呈現小盤狀，有小鱗片。然後鰭條呈垂直狀短型，各尾葉的前端呈圓型。尾鰭左右上葉的分歧點有呈傘(破竹)型跟日本象棋兩型，當尾鰭擺動，身體呈靜止狀時，尾葉張開的姿態非常優美，也是此魚隻最值得欣賞之處。

人工調色

此品種的特徵為只有一種體色，被稱為六鱗，是因為身體呈白色，各鰭、口、唇邊還有鰓蓋等六處呈紅色的關係。可以清楚的感受到其體態的優美。但是要出現自然的標準體色是非常稀少的，因此需要施以人工調色的技術。

人工調色是以冰醋酸等，使鱗片的色素消退。方法則為夏天褪色前，魚隻正值成長期時，先使用白梅醋、醃漬梅及酒石酸等，塗在鱗片上使其色素消失。當然也有其他方式去除鱗片上的色素，但目前是以此方式為主要的方法。

為了維持及控制身體的白色及鰭的紅色，飼育水的基本條件必須為高濃度的綠水，使用飼育缸雖然不容許藻類，但因以綠水當作飼育水，故飼育槽的清掃工作是勢在必行。飼料則使用與和金相同飼料，餵食次數也大致相同。

地金的欣賞標準

地金的欣賞標準為口、唇、鰓及各鰭等六處為紅色，其餘各部為白色。這為最基本的條件。左右的鰭需要對稱則各品種皆同。

根據「四葉尾地金保存會」的大竹和明會長所言，

19位～花房（ハナフサ） 顔先に大小の房が可愛い特徴の金魚。

20位～桜錦（サクラニシキ） ウロコが桜の花びらのような美しい金魚。

番外編～地金（ジキン）、ナンキン、浜錦（ハマニシキ）、大阪ランチュウ、他。

このように、日本における金魚業界は、伝統的生産技術と合理的な流通システムを持ち、絶えず新しい金魚の楽しみ方を、一般へ提供し続けているのである。

子供たちの心の成長にプラスになる、金魚飼育

金魚は観賞魚としては1000年近い歴史があり、絶えず品種改良が繰り返されているが、それだけ長い間人間と関わり合っていた観賞魚は金魚を置いて他にはない。

それだけ、その時代に合った愛され方をしており、現在では、社会環境の急激な変化に対応できるだけの安らぎや癒しを、我々に与えてくれる。

特に、社会や家庭環境の変化などでストレスが貯まっているといわれている成長期の子供たちにとって、学校や家庭での金魚飼育は、小さな命を大切にするといい情操教育に大いに役立つのである。そうすることによって、健やかな心の成長を促す貴重な体験となるのである。

某観賞魚メーカーでは、1994年に日本医科大学心理学教室・杉浦京子助教授らと共同で、「観賞魚飼育の精神療法における効用」に関する実験研究を行い、観賞魚を飼育することで活動性が高まり、意志が強くなることから、その結果としてストレス耐性が高まることが「学術的」な側面からも証明されている。

このように、私たちの生活や子供たちの成長に大変有効な、金魚飼育を普及・啓蒙させることにより、観賞魚業界をより活性化させ、安定成長を促す必要があるといえよう。

日本の天然記念物の金魚について

ジキン、トサキン、ナンキンは日本の地方で独特の改良が行われ、天然記念物に指定されている。その特徴を保つためにも、飼育にはプラスアルファの手間が必要である。これらの「地金魚」の飼育方法を少しだけのぞいてみよう。

1. これらの金魚を入手するには

水質の変化に特に敏感な地金魚たちは、知識のない人が飼おうとすると、家につれてきて1～2週間程度で死んでしまうことがある。知識が十分にある専門店や愛好家から直接分けてもらい、世話の仕方を細かく聞いて帰った方が安心である。入手したい金魚を専門的に扱っている店や愛好会に入り、出向いて魚を分けてもらうことが望ましい。

2. 飼育の基本的な考え方

地金魚たちは、通常の方法だけだと、色や尾ヒレ、体型などのユニークな特徴が、次第に薄れていってしまう。特に飼育で大切なのは、水質の調整である。屋外の青水で飼育し、水中に自然発生するアオコの量をどれくらいに調整するかが重要なポイント。アオコが多ければ、金魚がそれを食べ、体の赤色が鮮やかになるのである。

ジキン（愛知県天然記念物）

ジキンの歴史

ジキンは名古屋を中心とした愛知県下で飼育され、愛好家団体もあり、品評会が明治初期から開かれている。

ジキンとは土地の金魚という意味で、尾ヒレの形が孔雀の尾を上げたところと似ていることから「孔雀」、体色の特徴から「六鱗」とも呼ばれている。

この品種は大正7年頃、岡崎と名古屋両市で飼育される程度だったが、昭和10年頃、名古屋市故・増田冬輔氏が熱心にその保存発展に努め、全国的に紹介した。そして、昭和33年3月11日、愛知県の天然記念物に指定されたのである。

本種は金魚としてはワキンタイプで、体高はやや高く、腹部はふくれている。このふくれ方によりムナバラ、ウシロバラの区別がある。尾ヒレはこの品種の特徴である孔雀尾で、四ツ尾から変化した形で、四片が×型または十字型に広がり、中心は小盤状となり、小鱗がある。そして体軸に対して垂直に付着していて、長さは短く、各片の先端は丸みがある。

尾ヒレの左右の上葉の分かれ目の形に笹破（ササヤブシ）型と、将棋頭（ショウギガシラ）型の区別がある。この尾ヒレを振り動かして遊泳し、体が静止するとき、尾がぱつと開く運動が優美で、観賞のポイントの一つになっている。

人工調色

この品種の特徴の一つある体色は、六鱗と呼ばれるように胴体が白く、各ヒレ、口唇辺及びエラブタの6カ所が紅いので、姿の優美さとともに清楚な感じがただよっている。しかし、標準的な体色は自然の出現が稀なので、人工調色の技が施されている。

この人工調色とは、氷酢酸やサルチル酸などで、鱗の色素を消しとることをいう。方法としては、褪色前の夏の成長の盛んな時に、先の薬品や白梅酢、梅干し肉及び酒石酸などを鱗に塗って色素を消すのである。この他、鱗をはがして色素細胞を取り除く方法もあり、現在ではこの方法が主流になっているようである。

胴体の白、ヒレの赤のコントラストをキープするためにも、飼育水は濃い青水が基本であるが、飼育容器を放っておくのは禁物。コケを嫌うので、青水になった飼育水をとって置きつつ、容器の掃除はこまめに行うことが肝心である。

エサは、ワキンと同じものを、同じ頻度であげて大丈夫。

ジキンの観賞基準

ジキンの観賞基準は、口唇、エラブタ、各ヒレの6カ所が紅色で、そのほかの部分の白色であることが絶対条件。左右のヒレが対称であることは、どの品種でもいえることである。

「四尾の地金保存会」の大竹和明会長によれば、本来のジキンとは、「短く、太く、体高が高い」もので体長と体高の比率が当歳では100：65、2歳魚以上では100：60が重要な基準であるという。

なお、審査の基準点数は、愛好会によって少々異なるが尾が25点、腰が20点、胸が15点、尻ヒレが15点、着色（調色）色彩が15点、顔が10点の合計100点満点となっている。

トサキン（高知県天然記念物）

名前の由来

高知市を中心に飼育されてきたところから、トサキンと呼ばれている。高知県の天然記念物になっている。

特徴

大阪ランチュウ（ランチュウの頭部の肉瘤がなく、尾が体軸に対し平行で、尾葉が広がっているもの）とリュウキンの交配によって得られたとされている。

体型はリュウキンによく似ているが、尾ヒレが独特の形をしている。これは大阪ランチュウの形質を受け継いだものと考えられるが、通常三ツ尾や桜尾をしている尾葉が大きく広がっていて、それが反転した形をしている。体色は赤、紅白、白とあ





未來的地金應是「短、胖、體高」，一年魚的體長跟體高的比率約為100：65，而2年魚以上則為100：60，這是非常重要的標準。

並且審查的基本評分，雖依據同好會的不同而有些差異，但大致為：尾佔25分、腰20分、身體15分、臀鰭15分、調色15分、臉(頭)10分，合計為滿分100分。

土佐金(高知縣的天然紀念品)

名稱的由來：以高知市為飼育中心，被稱為土佐金，為高知縣的天然紀念品。

特徵：為大阪鰻鱺(鰻鱺的頭部無肉瘤、尾鰭條平行、尾葉則寬廣)及琉金交配而來。體型近似琉金，尾鰭有其獨特的形狀。雖然這是遺傳到大阪鰻鱺而來，但通常為三葉尾跟櫻尾，其尾葉大而寬，和短尾的大阪鰻鱺則剛好相反。體呈紅色、紅白、或白，尾呈黃色或銀白色。被指定為天然紀念品，果然是非常好看的一種品種。

擁有土佐金特色的體型及美麗的「反轉尾」，是需要獨特的飼育方式。出生一年內的魚隻，在夏季的2~3個月時，將其放入淺圓盆內讓牠們游動，因水淺可以維持鰭向上及剃尾基礎，並且使各鰭左右均等。讓左鰭與右鰭交互游動，反轉尾的形狀形成後，則不讓魚隻運動來保持尾鰭的形狀。若無成型則不使用打氣。

每天早上，必須清除水盆並且換水調整綠水濃度(水中須無藻類)，水質的標準為早上呈現透明水色，到了下午則會變成少許的青綠色。

再者，要保持土佐金優美體態，不可或缺者的為尖且整齊的臉型。飼料餵食太多的話，臉型會腫脹，建議使用脂肪含量較少的天然飼料，飼料量依照金魚的食慾與體型酌量增減。

南京(島根縣的天然紀念品)

名稱的由來：南京的命名沒有特別的由來，並不是因為金魚自身有特殊稀有的地方，也不是從荷蘭或是其他南蠻地方所來的。現在，在全國的飼育產地，就以出雲(島根縣)為最有名。

特徵：關於南京的生長過程，無法很清楚的辨識，有一種說法是由「丸子」(蛋魚)演變成南京，也有另一種說法是鰻鱺是由南京演變而來。而相信南京是鰻鱺的原生種者佔大多數。

也有一說法是「丸子」並不是鰻鱺的原生種，鰻鱺不是從丸子演變而來，而南京與兩者完全不相關的也有。若從較自然的角度來思考，應該是在「丸子」被淘汰期間，產生了南京與鰻鱺這樣的品種。

體型是背鰭上似有缺陷，與鰻鱺有點相似。但是頭部沒有肉瘤、口尖、身體比鰻鱺瘦長，從後方看起來則粗壯。

體色也呈六鱗，但不是非常重要。有紅、紅白及白色，多數喜好呈現光澤的白色體色。



土佐金。



南京。

鱗片的光澤

要讓鱗片的光澤脫落讓紅色呈現，藻類不是必要的。因此換水成了重點，更甚者，每天必須進行一次換水，所以最好在接近水域附近飼育會比較輕鬆。冬季時放在30~60cm較深的水槽飼育，也可避免水面的溫度過低。

此魚隻腹部突出，頭尾為固定的體型，餵食大約在早晨到午前，以防止體型變形。飼料的餵食量，稚魚時少量餵食，當魚體顏色改變後，增加餵食量則腹部體型會變得更美。

其他日本的獨特金魚

江戸錦

名稱的由來：由第二代的秋山吉五郎先生產出，根據產地命名為「江戸錦」，尾長者則被稱為「京錦」。

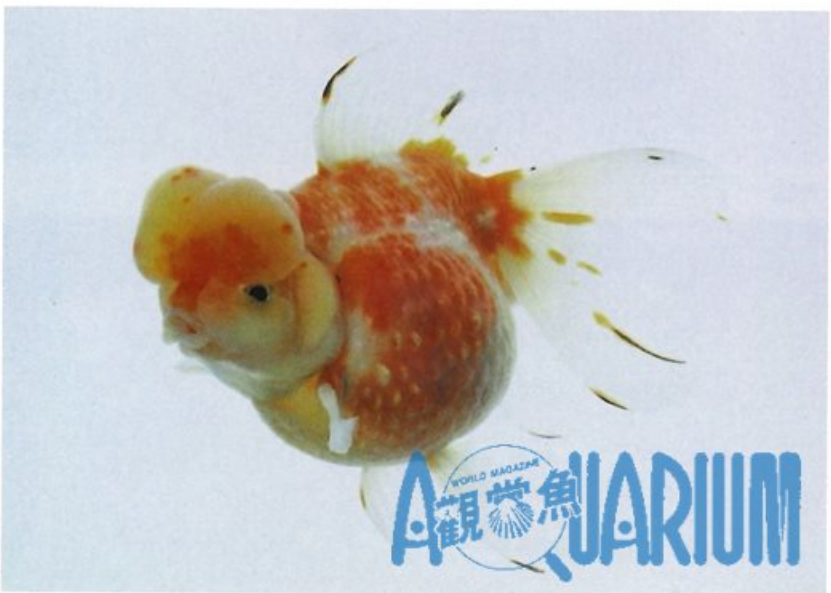
特徵：鰻鱺與亞馬遜錦交配而來，體型同鰻鱺，體色則呈亞馬遜錦的透明馬賽克狀。色彩非常優美的品種。交配後產生的後代中也有尾鰭較長者，這一類則被稱為「京錦」(來自與江戸對應的京都而命名)。

濱錦

名稱的由來：昭和35年間開始改良，昭和52年成為固定品種的金魚，由濱松這個地方產出稱為濱松錦。於昭和



江戸錦。



濱錦。

るが、尾の色は黄色や銀白色をしており、天然記念物に指定されるだけあり、まことに見事な品種の一つである。

トサキンの特徴である体型と美しいそり尾はトサキン独特の飼育方法によってできあがる。生まれて1年以内の魚は、夏の2～3ヶ月だけ丸鉢に入れて縁を泳がせる。縁の方は水深が浅く、ヒレを持ち上げて泳ぐ内にそり尾の基礎ができあがる。左右均等に筋肉が付くよう、右回りと左回りの交互に泳がせるようにする。そり尾のかたちができあがってきたら、後は運動させず、尾の形をキープする。形がいびつにならないよう、エアレーションは行わない。

水は毎朝、鉢の掃除と同時に青水の濃度を更水（アオコがない汲み置きした水）で調整する。朝にはほぼ透明だった水が、夕方には少し青くなっているくらいが目安といえる。

また、トサキンの優美さを保つために欠かせないのが、尖ってすっきりとした顔立ち。エサをあげすぎると、顔が膨れてしまうので、脂肪分の少ない天然飼料のイトメを使い、トレーニング中は少な目に。縁を泳ぐ必要がなくなれば、少し量を増やす。エサの量は、金魚の食欲や体型をみながらこまめに調節していく。

ナンキン（島根県天然記念物）

名前の由来

ナンキンの命名は別段意味はなく、金魚自体を珍しいものとしていたことでつけられたようで、オランダものとか、南蛮からきたものという意味でつけられたと思われる。

現在では、全国的に飼育されておらず、出雲地方（島根県）などの一部で飼育されている金魚である。

特徴

ナンキンの生まれた過程については、はっきりとは分かっていない。一つにはマルコからナンキンが出来、更にナンキンからランチュウが生まれ、よってランチュウの原型種であると考え人もいる。

他方には、マルコから生まれるがランチュウの原型種ではなく、あくまでランチュウはマルコより出来て、ナンキンはそれに関与していないという考えの人もいる。これはマルコを淘汰しているうちにナンキン及びランチュウという品種が生まれたことを意味するもので、こちらの方が自然であると考えられる。

体型は背ビレの欠如という点も含め、ランチュウとよく似ている。しかし頭部の肉瘤はなく口は尖った感じをしていて、胸部もランチュウに比べ細長く、後方になるに従い太くなっている。

体色は六鱗を目指しているようだが、あまり重要ではなく赤、紅白、白がある。光沢の揃った白勝ちの体色のものも好まれている。

鱗の光沢を落ち着かせて、赤色の発色がよくなるアオコはあまり必要ないので、更水で飼うのがポイントで、さらに水換えを1日1回行い多めの水が必要となるので、水場の近くにおいて飼と楽である。冬場は30～60cmの比較的深い容器に入れて、水面からの寒さをしのげるしほうがい。

腹が出て、顔と尾の付け根がしまった体型にするには、エサを朝一番から午前中に、体型を崩さない程度にまめに与える。エサの量は、稚魚の時には少なめで、稚魚のツナ色から変わった後、量を増やすとお腹が美しく出てくる。

そのほかの日本独特の金魚たち

エトニシキ

名前の由来

2代目、秋山吉五郎氏によってちくられたが、産地名にあやかってエトニシキと命名されたようである。これに対し尾の長いものはキョウニシキと呼ばれている。

特徴

ランチュウとアズニシキとの交配によって作出され、固定化された。

体型はランチュウと同型、体色はアズマニシキのモザイク透明鱗性であるため、雑色性で非常に美しい品種である。交配後生まれたものの中に、尾ビレの長いものが出来、これをエトに対してキョウとし、キョウニシキと呼んでいたが、現在ではあまりみられない。

ハマニシキ

名前の由来

昭和35年頃から改良が始まり、昭和52年によく固定化された金魚で、浜松方面において作出、固定化されたのでハマニシキと命名された。昭和52年2月、日本観賞魚振興会で新種として認定された。

特徴

頭部に肉瘤の発達した高頭パール同士の交配から、特に頭部の2つの水泡のように肉瘤が盛り上がったものを続けて飼育し、高頭水泡パールという品種が生まれた。さらに10年間愛知県蒲郡市の渡辺茂夫氏のところで改良が続けられ、系統的に固定化された品種である。





52年2月，經日本觀賞魚振興會承認為新品種魚隻。

特徵：頭部的肉瘤相當多，為高頭珍珠錦的同種，於昭和10年間由愛知縣的渡邊茂夫婦，經由高頭珍珠錦中產生特別種改良而來，後來成為固定化的品種。

櫻錦

名稱的由來：昭和45年經愛知彌富町深見光春先生改良而來，昭和55年成為固定的金魚品種。鱗片如櫻花苞初開的模樣，呈現淡粉色及白色相當閃耀，因而稱為櫻錦。平成8年2月經由日本觀賞魚振興會認定為新品種魚隻。

特徵：從江戶錦與鰻鰻交配產出的魚隻中找出體色美艷者，然後再一次與鰻鰻交配而來。經過10幾年的系統建立，才成為固定品種。

愛・地球博「金魚展」

地球未來夢想的實現，21世紀萬博「愛・地球博」於2005年3月在愛知縣長久手會場及瀨戶會場展開。

每日都有相當的多的群眾造訪，是個集合世界智慧結晶與創造豐富的未來世界的萬國博覽會。在9/9~9/11這三天，將於愛知縣館長久手會場的集合廣場舉辦金魚展，以「世界第一宇宙金魚撈取大會」為主題，盛大展出日本的代表性金魚。

撈取世界第一的宇宙金魚

此次金魚展是由日本金魚第一產地愛知彌富町與彌富金魚漁業協同共同主辦。當中最引人注目的主題則為「救世界第一的宇宙金魚撈取大會」。展場週邊設置全長120m以上的水族箱，可同時舉辦200人以上撈金魚活動。一起來挑戰吧！因為如此，除了當地的愛知縣民眾，也號召了來自世界各地的參訪者來共襄盛舉。

宇宙金魚、宇宙青鰐魚

大約有25種的金魚品種，會放置在大小70個以上的水族箱中展示，「宇宙金魚」、「宇宙青鰐魚」、「宇宙錦鯉」也會有特別的展示。

平成4年毛利衛先生為日本第一位至宇宙飛行的太空人，而當時就有彌富的錦鯉隨行。平成6年，向井平秋先生也帶了彌富的金魚，一起至宇宙飛行，因此宇宙實驗也開始活躍了起來。

人類與金魚的耳部構造相似，為了解開宇宙之謎因此選擇了金魚來做實驗。宇宙金魚是以人工授精的方式改良產出，從大約20萬尾的金魚中挑選出6尾鰻系尾的更紗和金（琉金），此次展示的為這些金魚的同系魚隻或是同系魚的後代，而且免費發送。

宇宙青鰐魚是初次在宇宙飛行中誕生的生物「青鰐魚」的後代子孫，為了探討新生命的誕生及實驗其生育的可能性。

其他，尚有觀賞魚飼育用品及飼料展示，金魚相關的飼育訪談區，介紹彌富町的書面展，金魚飼料展等許多與相關的有趣內容。

開展當日，萬博會場一日約有10萬以上的參訪者，金魚展的會場在展覽的3日間，也有相當熱鬧的人潮。



櫻錦。



評審正在審查中。



會場金魚展示盛況。



大家一起來撈取「世界第一」的宇宙金魚吧！



形態不同的金魚亦可一起飼養。



紅白琉金及五花琉金。



愛知縣的愛・地球博「金魚展」の手冊簡介。

(圖摘錄自日本愛・地球博「金魚展」手冊)



金魚也登上太空。
(圖摘錄自日本愛・地球博「金魚展」手冊)

サクラニシキ 名前の由来

昭和45年頃より愛知県弥富町の深見光春氏によって改良が始まり、昭和55年によく固定化された金魚である。鱗が桜の咲き始めのように、淡いピンクや白色に鮮やかに輝いていたことからサクラニシキと命名された。平成8年2月、日本観賞魚振興会で新種として認定された。

特徴

イドニシキとランチュウの交配によって得られた中より、体色の美しいもの同士をかけ合わせ、その後にランチュウをもう一度かけ直して作出された。以来、10数年かけて系統的に固定化された品種である。

愛・地球博「金魚展」開催

地球の未来と夢の実現を目指し、21世紀万博「愛・地球博」が愛知県長久手会場と瀬戸会場で、2005年3月に開催した。連日、大勢の人々が会場を訪れ、世界中の知恵と力が集結

した、豊かな未来社会を体感した。

その中で、長久手会場、愛知県館、あいち・おまつり広場で、9月9日(金)～11日(日)の3日間、「金魚展」を開催した。「世界一の宇宙金魚すくい大会」をはじめ、日本の代表的な金魚の展示など、盛りだくさんの内容だった。

世界一の宇宙金魚すくい

この「金魚展」の主催は、日本一の金魚産地である、愛知県弥富町と弥富金魚漁業協同組合。そしてイベントとしての一番の目玉は「世界一の宇宙金魚すくい大会」であった。おまつりひろばに設置された水槽を合わせると全長120m以上にものなり、同時に200人以上の人が金魚すくいを行うことができるというもの。『一緒にギネスに挑戦しましょう!』というかけ声の元、地元愛知県の人々だけでなく、世界中から集まった来場者によって、盛大に行われた。

宇宙金魚&宇宙メダカ

約25種類の金魚をはじめ、大小合わせて70本以上の水槽展示の中に、「宇宙金魚」「宇宙メダカ」「宇宙錦鯉」も特別展示された。

平成4年、毛利衛さんが日本人初の宇宙飛行士としてスペースシャトルで宇宙に飛び立ったが、そのとき弥富の錦鯉が同乗し、平成6年には向井千秋さんとともに、弥富の金魚が宇宙に飛び立ち、宇宙実験で活躍した。

人間と金魚は耳の構造が似ているため、宇宙酔いの謎を解く実験のために選ばれた。宇宙金魚は人工授精で改良された約20万尾の金魚の中から選ばれた6尾のフナ尾の更紗ワキンだったが、その兄弟金魚たちや兄弟金魚の子孫たちが展示、無料配布された。

宇宙メダカは、宇宙における新たな生命の誕生とその生育の可能性を探る実験に選ばれ、スペースシャトルの中で初めて誕生した生物である「メダカ」の子孫たちであった。

その他として、観賞魚飼育用品&フード展示、金魚なんでも飼育相談コーナー、弥富町紹介パネル展、金魚アート展など数々の面白い金魚関係のイベントが実施されていた。

開催当日は、万博会場には1日10万人以上の来場者が詰めかけ、「金魚展」会場も、開催の3日間大勢の人々にぎわっていた。

